

## (様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

No.1

嬉野市議会議員

増田 朝子

実施月日	令和元年 5月14日(火)			
実施時間	10:00~11:30			
調査先	釜石市			
調査所在	岩手県釜石市只越町3丁目9-13			
調査の目的	防災教育(「釜石の奇跡」)について			
調査先担当者	総合政策課 震災検証室 室長 臼澤 渉氏			
内容・結果等	【2011年3月11日(金)東日本大震災 発災】 平成28年2月現在			
	釜石市の… 死者 888人(全人口39,574人) 行方不明 152人 被災家屋 4,614戸			
	東日本大震災 釜石市教訓集「未来の命を守るために」			
	1、命を守るための行動 2、避難所生活で命をつなぐ 3、命を守るための備え 4、津波の記録を未来へ伝える			
	【釜石市の防災教育について】「いのちの教育」の目標…①自分の命を尊重する心を培う			
	②地域の人や自然、自然災害に対する理解を深める ③主体的に自分で判断し行動することができる資質や能力を育てる			
	保護者や地域、市防災課と連携した避難訓練…①下校途中を想定した訓練 ②授業参観での授業実践や引き渡し訓練 ③防災マップ作り ④「EAST-レスキュー」			
	震災時のまとめ…①中学校の生徒たちは率先として避難 子どもや大人を巻き込んで津波からみんなの命を守った ②最初の避難場所でも危険を察知 ③子どもたちが自ら判断し、			
	最善を尽くした 「訓練通りのことをしただけです」			
	【現地視察(うすのまい・トモス) 震災メモリアルパーク】			
	基本理念…津波による犠牲をなくし、未来の命を守るために・震災を後世に伝え、悲劇が繰り返されないまちづくりを発信する			
	【まとめと感想】 震災当時のことの説明を受けて、想像を絶した。(百聞は一見にしかず)そして「訓練通りのことをしただけです」の子どもたちの言葉に、日頃の訓練が実践に近い訓練だったと推察され、防災教育(釜石の奇跡)の必要性、重要性を強く感じた。現地視察の「いのちの未来館」で震災当時中学生だった女性が、当時の避難経路や状況を目頭を潤ませながら説明されていたのが印象的だった。いつ来るか分からない災害、防災意識を高めるためにも被災地を知る、観ることで自分事にしていくことが大切と感じた。本市においても、子どもたちに被災地への訪問や交流事業を通して子どもたち自ら、防災意識を高めてもらうように提案をしていきたい。今回、昨年3月まで、派遣職員として勤務されていた方に案内してもらい、内容の濃い研修となった。			
	上記活動に要した経費	経 費 の 内 容	支 払 先	金 額 ( 円 )
		旅費		38,310
宿泊費			16,832	
合 計			55,142	

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

No.2

嬉野市議会議員

増田 朝子

実施月日	令和元年 5月15日(水)			
実施時間	8:30~10:30			
調査先	石巻市			
調査所在	宮城県石巻市穀町14-1			
調査の目的	①東日本大震災の復旧・復興に向けた取り組み ②防災センター視察			
調査先担当者	福祉部 生活再建支援課 課長三浦義彦氏 災害対策グループ 主査 武山 壯氏			
内容・結果等	【大川小学校現地視察】視察2日目に石巻市向かう途中に大川小学校を現地視察した。			
	震災の傷跡が生々しく、周りを見渡せば、すぐそこに裏山が見え、どうしてそこに逃げなかったんだろうと思えるほど裏山は近かった。これが「石巻の悲劇」として報道された。現地では、慰霊碑が建立されており、大川小旧校舎を震災遺構として保存することとなった。			
	【復興の状況】平成28年5月1日(プレハブ仮設住宅世帯数:3,499戸)令和元年(20世帯:0.34%)プレハブ仮設団地集約の基本的な方針…①孤立防止・防犯対策・コミュニティの維持 ②学校用地や民有地の返還、公園用地の復旧 ③再建後のコミュニティに配慮した仮設団地間移転			
	支援自立再建を実現するための基本的な視点…①住まい ②健康・福祉 ③暮らし向き(家計)			
	④コミュニティ			
	【防災センター】2018年5月に開設			
	導入の背景…災害対策を迅速化する新たな防災拠点で、災害状況、気象情報、河川氾濫など様々な情報を一元管理するオペレーションシステムを導入。マルチモニターやフルデジタル会議システム等を中心とした先進の情報通信技術を有機的に組み合わせたソリューションで「災害時の司令塔」をサポートする。			
	平常時… ①防災に関する情報の収集・分析 ②啓発活動 ③防災教育 ④震災のアーカイブの展示 ⑤市民や自主防災組織が利用できる施設			
	【まとめと感想】大川小学校では、裏山に逃げようとした児童を呼び戻したり、迎えに来た保護者を長い時間留まらせたり過去の教訓があるにも関わらず、学校も住民も防災に関しての意識の低さがこの悲劇を招いたと感じた。震災より8年、復旧・復興に向けてハード面は整いつつあるが、ソフト(心の)面はまだまだと話されたのが印象的だった。			
	防災センターにおいては、国家レベル並みの最新の機材を導入され、復興交付金の財源で事業費は13億8千万円とのことである。平常時は市民や自主防災組織などの研修やワークショップの場とあるが、本当に市民が利用しやすく、寄りやすい拠点になっているか、防災の優先順位がこれなのかと少々違和感を感じた。本市においては、まだまだ安全神話がある中、まずは「災害はいつ来るか分からない!」と市民の防災意識の醸成を図るべきと強く感じた研修だった。			
	上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額(円)
		旅費		NO.1に同じ
		宿泊費		
合計				